

2007年度農業施設学会シンポジウム

農場での食の安全システム（GAP）の展開

食品の安全に対する消費者意識や農業が環境に与える影響についての認識が年々高まっています。2002年よりヨーロッパでは適正農業規範(EUREPGAP)導入認証制度が本格的にスタートし、2005年にはすべての生産者にその認証取得を要請しています。これはヨーロッパ国内だけでなく、ヨーロッパへ農産物を輸出しているすべての生産者に対しても適用されます。日本でも2006年5月29日から導入されたポジティブリスト制への対応の一環として食品安全GAPへの取り組みを農林水産省が普及、推進を行っています。また、NPO法人日本GAP協会では日本版農業適正規範(JGAP)を策定し、認証制度をスタートしています。今後も生産から加工、流通、消費までの安全性を確保するためのシステム作りは重要な課題となります。農業施設学会では、農産物や食品の衛生管理、品質管理への取り組みに関する研究を行っています。農場段階での食の安全に対する意識が高まっている昨今、食品産業との連携が不可欠であり、その一環として、食の安全シンポジウムを開催します。GAPをテーマに第一線で活躍されている専門家の皆様からお話を頂くことに致しました。

ご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

1. 日時： 6月5日(火) 13:00～16:00
2. 会場： 東展示棟内セミナー会場B (国際食品工業展会場内に設置)
FOOMA JAPAN 2007 (東京ビックサイト)
3. 定員： 先着90名まで
4. 講演内容：
13:00～13:10 開会挨拶 五十部誠一郎 農業施設学会副会長
13:10～13:50 ①食品安全から見たGAPの日本の方向性
佐藤京子 班長 農林水産省消費・安全局農産安全管理課 生産安全班
13:50～14:30 ②日本版GAP(JGAP)のアグリフードチェーンへの必要性
田上隆一 代表取締役 農業情報コンサルティング(株)
14:30～15:10 ③EurepGAPの現状とヨーロッパでの展開・発展性
向井正弘 部長 SGSジャパン株式会社
15:10～15:50 ④流通業界から見たGAPの必要性和評価
植原千之 部長 イオン(株)商品本部 グリーンアイ開発部
15:50～16:00 閉会挨拶 保坂幸男 農業施設学会副会長
ナビゲーター 守田和夫 教授 鹿児島大学農学部
5. 主催： 農業施設学会、かごしま産官学交流研究会食の安心・安全部会
6. 共催： 鹿児島TLO
7. 後援： 日本食品機械工業会
8. 問合せ先：農業施設学会シンポジウム担当 Tel:099-284-1632 (担当：町田)
morita@agri.kagoshima-u.ac.jp

お申込み方法・・・下欄にご記入の上本紙をFAXにて送信下さい。

農業施設学会シンポジウム担当 宛

FAX：099-284-1632

「食の安全GAPシンポジウム」(2007年6月5日開催)参加申込書 (締切り 5月31日)

御社/団体名					
御住所	〒				
TEL		FAX		E-Mail	
御芳名				所属/役職	
御芳名				所属/役職	